

# 有識者構成員資料

# 拡張版アカデミックゲートモデルの考え方

出典: 明石純一(2019)「平成30年入管法改正をめぐって一考察: その歴史的意味と『外国人材』受入れのこれから」『法律のひろば』72(4)、加筆修正あり。

明石構成員  
提出資料

- ・日本語を学ぶ(外国)～日本語を学ぶ(日本)～日本語で学ぶ(日本)～日本語で働く(日本)
- ・入学、単位取得、卒業、就活、契約更新という多層的な選抜過程

海外での日本語学習機会の提供

潜在的留学生の掘り起し

帰化

語学留学

要件の調整

アルバイト(生計維持)

教育環境の整備

永住資格取得

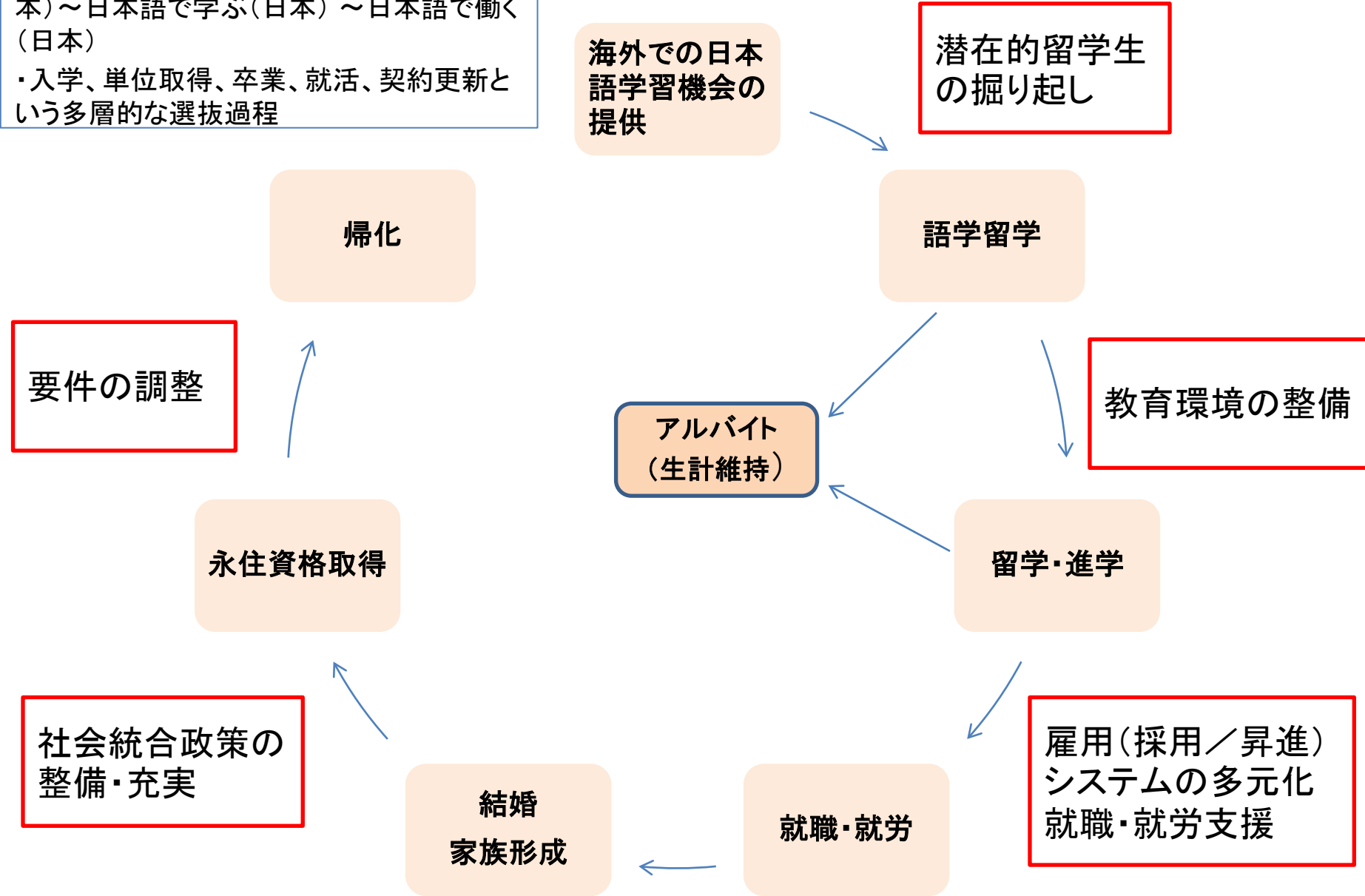
留学・進学

社会統合政策の整備・充実

結婚  
家族形成

就職・就労

雇用(採用/昇進)システムの多元化  
就職・就労支援



# (参考) 外国から人材を誘致するアプローチ・・・4つの整理 (Abella 2006)

II. 留学生・高度外国人材・受け入れ企業の状況

<b>人的資本重視型</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 職種や雇用の有無にかかわらず、産業の高度化や企業の競争力向上に資するとみなされる外国人がターゲット。彼らに対して永住資格や国籍付与を進めるアプローチ</li><li>➢ 専門職に従事することを前提に発給されるアメリカの移民ビザ、シンガポールでの高所得者への永住推進策 など</li></ul>
<b>労働市場メカニズム呼応型</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 不足している技術、技能を埋めるために、該当する職能・資格を有する人材を外国から調達しようとするアプローチ</li><li>➢ 各国で実施されている「労働市場テスト」や「労働力不足職種リスト」、日本が2000年代に推進したIT分野における諸外国との資格相互承認 など</li></ul>
<b>ビジネスインセンティブ優先型</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 投資家、経営者、上級管理職が主たる政策対象。一定額以上の投資を要件として外国人に対して永住資格を含む安定した滞在条件等を保証するアプローチ</li><li>➢ 3年以上滞在し、3億ウォン以上の投資をして、韓国人を2人以上雇用していれば永住要件可とする韓国の制度、日本の高度人材ポイント制(1億円以上の高額投資家に対するポイント加算措置)など</li></ul>
<b>アカデミックゲート型</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 大学・大学院時に優秀な学生を先んじて確保し、卒業後、当該国で就業してもらうアプローチ。人的資本重視型と考え方は通底。入口が大学機関という点が異なる</li><li>➢ 各国が実施する、留学生を「高度外国人材の卵」とする誘致策 など</li></ul>

[資料] Abella, Manolo, "Global Competition for skilled Workers and Consequences", Competing for Global Talent, edited by Kuptsch, Christiane and Eng Fong Pang, International Institute for Labour Studies, ILO, 2006, pp.11-32.

出典:三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社政策研究事業本部  
「留学生・高度外国人材の受け入れの実態と課題」(2018年)  
規制改革推進会議保育・雇用ワーキンググループ資料1より抜粋

大野構成員  
提出資料

# 教育未来創造会議WG（第5回） 提出資料

2022年 10月 27日

東北大学総長

大野 英男



TOHOKU  
UNIVERSITY



- 研究大学の魅力を発信し、世界から優秀な留学生を獲得し、キャンパスそのものを魅力ある国際的環境とすることは、留学生のみならず、そこで学ぶ国内学生が国際環境で切磋琢磨する機会を提供する。また海外留学を指向するきっかけともなる。インバウンド・アウトバウンド双方の学生、そして外国人教員も交えたダイバーシティに富んだオープンでボーダレスなキャンパス\*の形成は、わが国に必要な世界との人的ネットワーク構築に大きく寄与。 (\*含むキャンパス整備)
- 日本をリードする研究大学にとって、こうした環境の構築は不可欠である。東北大学でも文科省施策や独自財源の投入も含め努力を重ねてきた。しかし、研究大学全体としての大きな変革を実現するには、大胆な制度改革などの政府からの後押しが不可欠。



# 先進的で魅力的なキャンパスの整備

## 【優秀な留学生の受入れ拡大に向けて】

- ・ 国際的な研究力・競争力の強化とともに、世界中の優秀な学生を惹きつけられる、先進的な教育研究環境を備えた魅力的なキャンパスの整備が不可欠。
- ・ スタートアップ支援やグリーン戦略の実現とともに、新たなイノベーション創出の舞台となる戦略的・魅力的なキャンパス・施設づくりが求められる。
- ・ 国が進める**イノベーション・コモンズ**の先取りも有効。
- ・ なお多くの研究大学を擁する国立大学では施設の老朽化が深刻化（老朽化率約34%）

### （イノベーション・コモンズの事例）

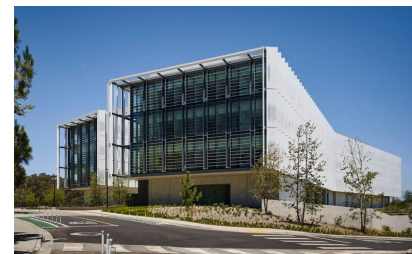
- ・ UCサンディエゴ校では、研究スペースの分散化や経年による機能低下を解消するため、2022年に「Franklin Antonio Hall」を整備。
- ・ Digital Future（テクノロジーが人々の健康と幸福を支援）をビジョンに、イノベーションエコシステムの構築と多様な分野における民間企業とのコラボレーションの舞台となる設計。



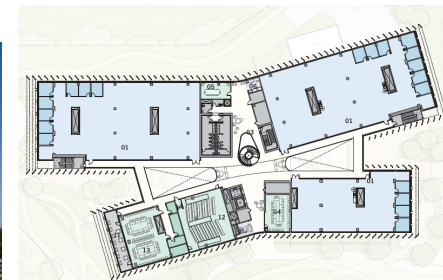
MIT (QS:1位) メディアラボ  
(Archetype Review Inc.のホームページより)



シンガポール国立大学 (QS:11位)  
(Start Up Singapore Life ホームページより)



UCSD Franklin Antonio Hall  
(Perkins&Willのホームページより)



UCSD Franklin Antonio Hall  
(UniversityofCaliforniaのホームページより)

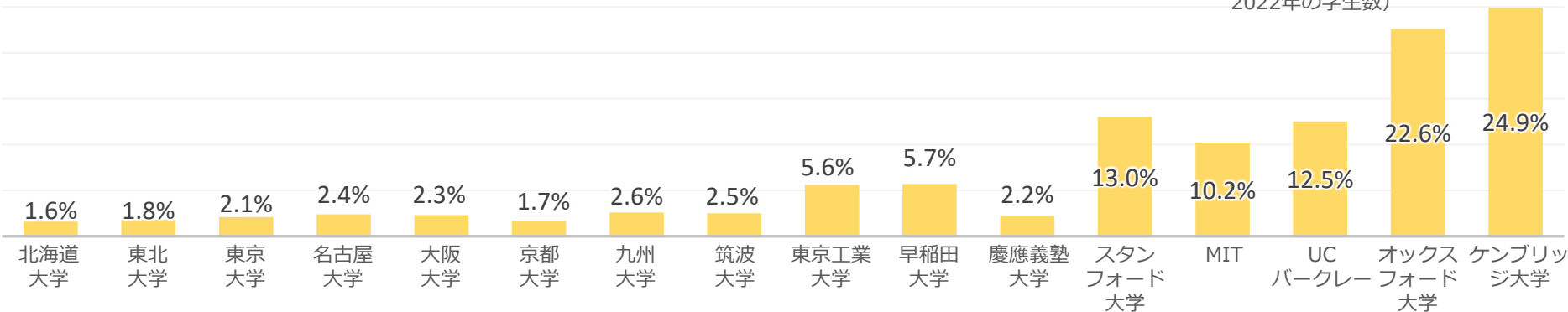


- 優秀な外国人留学生の獲得は、国内学生にとってもグローバルな環境での教育機会の確保、世界とのネットワーク構築に大きく寄与。世界と共存し発展ある未来を作り上げる上で不可欠
- 国際的に人材獲得競争が熾烈になっている中で、我が国の研究大学は、優秀な外国人材を惹きつけるポテンシャルがある。従来の学生定員の概念にとらわれない大胆な策を講じることが必要
- 特に、我が国の研究力を大きく支える国立大学では、教育の正当な対価として外国人留学生授業料を別途設定出来るようにすべき
- 加えて、優秀な人材が世界から集い活躍できる就職・起業環境や雇用慣行の構築が重要



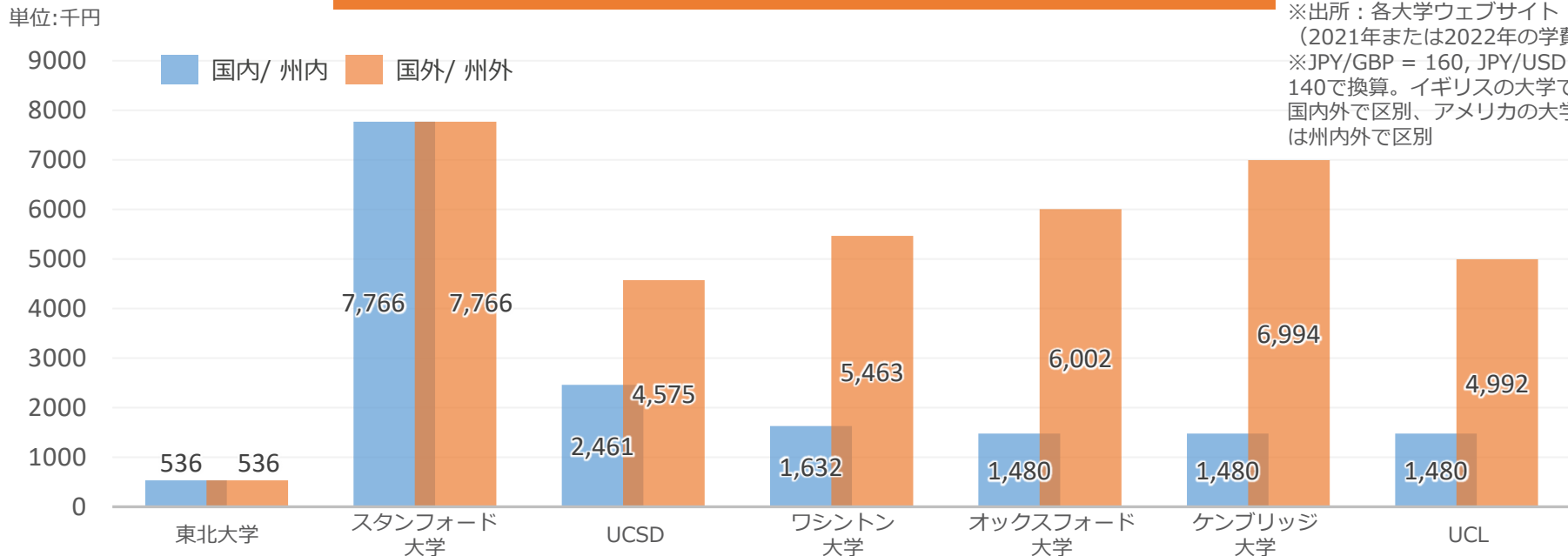
### 日・米・英の学部留学生比率の比較

※出所：本会議参考データ集および各大学ウェブサイト（2021年または2022年の学生数）



### 日・米・英の学部学費の比較

※出所：各大学ウェブサイト（2021年または2022年の学費）  
※JPY/GBP = 160, JPY/USD = 140で換算。イギリスの大学では国内外で区別、アメリカの大学では州内外で区別







高度外国人材として就職する場合に切り替える「技術・人文知識・国際業務」ビザは、専門性が問われるために柔軟な進路選択ができない場合も生じている。

- ベンチャー企業から内定をもらったが、当該企業における高度外国人材の必要性への評価や、本人の専門性との関係への評価から、ビザの切り替えが不許可となり、帰国（博士前期・理系）
- 在学中からアルバイトをしていた外食産業に正社員としての就職を希望し、内定をもらったが、職務内容と本人の専門が合致せず、ビザ切り替えが不許可（博士前期・理系）

日本固有の雇用慣行等への理解、適応が難しい。

- エンジニアとして働くことを希望し、第一希望のメーカーに就職した。日本企業のジョブローテーションより本社での管理業務部門に配属されたが、職務内容に慣れることができず、1年ほどで転職を決意（博士前期・理系）

## 世界大学ランキングをめぐる課題

— 私大連が行ったアンケート調査から —

高橋裕子



## はじめに

2018年度、一般社団法人日本私立大学連盟（以下、私大連）は「私立大学の世界発信力強化に関する検討プロジェクト」を立ち上げた。一年という時限を設けて、世界大学ランキングに関する実態と課題を整理し、私立大学の国際的なプレゼンスを向上するために、どのようなことが求められているのか調査、検討を重ねた。

筆者は私大連の教学担当理事者会議の担当理事でもあることから、本プロジェクトに担当理事として加わった。プロジェクトは森本あんり氏（国際基督教大学学務副学長）を委員長に、小塩和人氏（上智大学外国語学部教授）、中村義久氏（関西学院大学学長室課長補佐）、下山裕司氏（南山大学国際センター事務室室長）、吉川倫子氏（芝浦工業大学理事、豊洲学事部長、SGU推進本部事務部長）、早川敦子氏（津田塾大学学芸学部教授、図書館長）、黒田一雄氏（早稲田大学院アジア太平洋研究科教授）の各委員で構成された（役職名等は2019年3月現在）。

本稿では、本プロジェクトがまとめた報告書「私立大学の国際的なプレゼンス

向上のために—世界大学ランキングの活用と課題」（2019年3月）の骨子を紹介しつつ、世界大学ランキングにまつわる問題点を整理したい。

## プロジェクトの経緯と目的

本プロジェクトが立ち上がった経緯について最初に述べておこう。日本において「世界大学ランキング」という言葉で世界の有力大学の順位がメディア等で報道されるようになって10年以上が経過した。ランキングが発表されるたびに、日本の大学の順位が世界の有力大学と比べてどのように推移しているのか、新聞やテレビのニュース等でも取り上げられ、大学関係者だけでなく、行政や政界の関係者、さらに学生や保護者を含む一般の人びとが広く接する情報となった。そして、それが日本の大学の「お寒い」状況として語られる一つの好材料となっている。何かを語る際に、数値やデータを出すこと、いわゆる「エビデンスに基づく（evidence-based）」ことが求められる昨今、大学を改革しなければならない証左として、その数値が頻繁に使用されるようになった。

その一つの例が、教育再生実行会議の

第3次提言「これからの大学教育等の在り方について」（2013年5月28日）である。「徹底した国際化を断行し、世界に伍して競う大学の教育環境をつくる」という目的を掲げ、「国際共同研究等の充実を図り、今後10年間で世界大学ランキングトップ100に10校以上をランクインさせるなど国際的存在感を高める」と、「世界大学ランキング」というフレーズを使って、高等教育の目的が明示的に謳われた。そして、この数値目標を実現すべく、様々な施策が打ち出されたのだが、とりわけ注目されたのが、トップ型・グローバル化牽引型の2種類を選定する、「スーパーグローバル大学」の重点支援だった。それから早6年以上が経過したが、その目的の達成は道半ばとの感が否めない。

「世界大学ランキング」がこのような目的として明示的に文教政策に用いられるならば、その検証が必要であろう。2017年に台湾の台中で「世界大学ランキング」が発表される会合に出席した筆者は、その思いを強め、私大連の常務理事会等で発言したことが本プロジェクトを立ち上げる要因の一つとなった。

今、あらゆる大学は、設立経緯や設置形態を問わず、国際化への対応を求められている。それゆえ、本プロジェクトでは、「世界大学ランキング」の在り方に加え、国内の私立大学が世界に向けた発信力強化をどのように捉え対応しているのかアンケート調査を行い、情報を共有化することを通して、直面している課題

や問題を整理しようと試みた。

## 私大連によるアンケート調査

アンケートでは、「私立大学の世界発信力強化の施策」と「世界大学ランキング指標に係る課題」の大きく二つの柱を立てて、それぞれについて加盟大学の現状や実態を捉えるべく設問を用意した。世界大学ランキングについては、活用しているかどうか、活用している場合には、その活用方法、さらに、国内でも流布している「THE（Times Higher Education）の世界大学ランキング」については、「THE世界大学ランキング日本版」「THE世界大学ランキング」「THEアジア大学ランキング」に分けて、それぞれ問題点や課題と感じていることを自由に記述できるようにした。最後の設問には、「THEに限らず、大学のグローバル（国際）化に関する日本の政策・施策のなかで、世界大学ランキングが活用されることは適切であるとお考えですか」を置き、その理由も記載してもらった。

アンケートは加盟法人（110法人）に対して2018年9月に実施した。79法人（83大学）から回答を得ることができ、回答率は71.8%だった。

## アンケート結果の概要と分析

ここでは主に「世界大学ランキング」の回答結果について紹介する。まず、活用の有無については「活用している/活用していない」が、それぞれ41大学ずつとなった。全体の傾向としては大規模



## 時の課題

大学ほど活用しており、女子大学や医・歯・薬・看護系は、それほど活用していない実態が把握できた。活用している世界大学ランキングは、日本版も含めTHE関連のものが延べ41校と圧倒的に多く、QS世界大学ランキングは13校に留まっていた。主な活用方法としては「大学改革のベンチマーク」のため、あるいは協定校を検討する際の参考に用いていることがわかった。また、世界大学ランキングの利用について、適切であると回答した割合は67大学中約6割（40大学）だった。

報告書内の「アンケート結果の概要と分析について」（2-6頁）が指摘する通り、「日本の諸大学がみずからの立ち位置を振り返り、研究と教育の質を向上させるためには、ランキングは有意義であると言える」（2頁）。しかし、数多く寄せられた自由記述欄の意見から、以下の3つの主要な問題点があぶりだされた。

第一に、私学はその建学の精神、設置目的、形態の独自性や規模等も様々であるのに、一律に評価し、ランキングしてしまうことに問題があるという懸念が広く共有されていた。すなわち、「一律化の弊害」である。

第二に、各大学から提供されるデータの客観性の担保に疑問が示された。データの透明性や信頼性についても確認する方法がなく、「ブラックボックス」となっていることへの問題性が指摘された。「根拠となる実数や標準化の算出方法が公表されていないので、他大学との比較

や分析の上で改善策を検討するというランキングの本来の目的も遂行することができない」（3頁）という指摘は重要だ。

第三に、倫理的な問題に関する本質的な指摘は看過できない。すなわち、特定の私企業がランキング業務を独占している状況下で、公益性のある、高等教育機関のランキング業務が一つの利潤を伴うビジネスとして成立していることだ。ランキングを行う私企業が同時に対象大学に対してコンサルティング業務を行うことをどのように捉えればよいのだろうか。報告書はこのような「倫理的問題」について、「関連データの独占的な収集と排他的な管理は、市場メカニズムの適正化機能や監視と検証の可能性を封殺し、将来にわたる濫用の危険を招くからである」（3頁）と警鐘を鳴らしている。

### 文教政策に用いることの危険性

以上のような問題を踏まえると、メディア等で発表される「世界大学ランキング」なるものを、データの中身を見極めることなく真正面から受け取り、文教政策の数値目標として設定することが、いかに危険であるかは明らかではないか。文部科学省の大学国際化支援制度（「グローバル人材育成推進事業」「スーパーグローバル大学創成支援事業」等）についても多くの意見が寄せられたが、年度毎に補助金が減額されるなど、取組の阻害要因がこまごま存在していることもアンケート調査から明らかになった。また私学助成においても、「メリハリのある

## 時の課題

配分」という方針のもと、「グローバル大学」を目指す少数の大学に集中的に補助金を分配することによって、ランキングの上昇を政策として誘導しようと試みたとも思えるが、そもそも、そのような目的を設定すること自体、本末転倒ではなかったのか。報告書内の「大学の国際化に関する日本の政策・施策について」（21-22頁）では、補助金のあり方として、「1件当たりの助成規模が比較的小さくても大学の個別部局や小規模大学が申請主体として活用できた」（21頁）GP事業等の方が、今後の国際化推進の支援枠組みとして、より多様な機関の国際化を効果的に促進できるのではないかという具体的な提案もあった。

### むすびにかえて

本プロジェクトを開始するにあたって、苅谷剛彦氏の『オックスフォードからの警鐘』（中公新書、2017）を皆で通読した。その最終章「グローバル大学への警鐘—日本の大学は何をめざすべきなのか？」で苅谷氏は、イギリスが外貨を獲得するために展開した「高等教育グローバル化政策」とTHE等の世界大学ランキングが興隆するタイミングの連動を指摘し、それらがイギリスの「国家的なマーケティング戦略」である可能性を的確に示唆している（193頁）。

2008年以降、日本の政財界やマスメディアで頻出するようになった世界大学

ランキングは「英語圏の国々のマーケティング戦略に日本はまんまと巻き込まれている観が否めない」（195頁）との警鐘に日本の大学関係者のみならず、マスメディアや政財界で大学について語る者たちは耳を貸すべきであろう。換言すれば、データリテラシーが問われているとも言える。海外の一私企業が作った〈物差し〉によるランキングに、日本国内の大学を一律に合わせていくのか、あるいは、日本の高等教育の特性や力点を勘案した「エビデンスに基づく（evidence-based）」新たな〈物差し〉を作り、私立大学の多様性を担保していくのかといった論点も、今後さらに検討していく必要がある。

私大連の本アンケートからは、問題を認識しながらも、「世界大学ランキング」に全く参加しなければ大学のプレゼンスを損ね、諸刃の剣になってしまうという各大学の苦境が明らかになった。大学を取り巻く多くの政策が「世界大学ランキング」の言説に影響を受けつつも、それでも各機関が国際的なプレゼンスを向上させるべく地道で多様な努力を積み重ねていることもわかった。「世界大学ランキング」の課題を検討するとき、大学での教育や研究は本来どのようにあるべきか、ランキングの数字に翻弄されることなく、今一度深く考察しなければならない。


（津田塾大学 学長／アメリカ社会史）



# 第5回 未来創造會議提出資料

2022.10.27

# 提言ポイント




留学概念  
再構築



海外派遣



外国人  
受入れ



留学概念  
再構築

## ① 留学の重要性(WHY)を再定義する

- 留学で何を培うことができるのか
- 留学がもたらすメリット等

## ② 留学をもっと身近な存在にする

- 海外 = 欧米だけではないということをもっと政府としても発信し、海外留学に対するハードルを下げる



## 海外派遣

### ① 主要大学に海外のオンライン学習プラットフォームと外資系企業出身者による「グローバルキャリア授業」を導入する

- CANVASの導入

\*p.5に参考資料あり

### ② 留学をもっと身近な存在にする

- 海外 = 欧米だけではないということをもっと政府としても発信し、海外留学に対するハードルを下げる
  - 海外留学経験のあるインフルエンサーxトビタテ留学JAPANのTikTok、Youtube発信
- 高等教育における第2外国語の導入(英語、中国語、韓国語、スペイン語等)
- トビタテ！留学JAPANが提携している海外の教育機関と「ONLINE AFTER SCHOOL」を設立し、海外の高校生と日本の高校生をオンラインで交流させる

### ③ グローバル視点の教師を増やす

- トビタテ！留学JAPANが提携している海外の教育機関に属する教員と日本の教員との留学制度をつくる



# CANVAS


BY INSTRUCTURE

**The World's #1 Teaching and Learning Software**

[LOG IN TO CANVAS →](#)

[DIG INTO CANVAS ↓](#)



 Hey, I'm the Instructure Bot. Glad to have you here. Any questions? I can help!



CHOOZY SCHOOLS CHOOSE CANVAS



WE CHOOSE GREAT PARTNERS





外国人  
受入れ

## ① 日本での教育、生活、その後のキャリアジャーニーの解像度を上げる

- p.8~9参考資料 カナダ政府のように小学校～プロフェッショナルまでのステップ、費用、具体的な方法などが記載する等

## ② JSL (JAPANESE AS A SECOND LANGUAGE)の導入

## ③ 主要大学における留学生向け企業インターンシップの枠を増やす

## Canadian education options

Do you want a study abroad experience that will change your life? Come to Canada! Your options for studying in Canada are endless, from elementary and high school all the way through to college, university and graduate studies. You can also study in Canada to improve your English and French language skills, take part in an exchange program or study from home through one of our online and distance learning programs.



### Elementary school

---

Are you moving to Canada with your children or thinking about sending your child to a private boarding school? Canada offers excellent elementary or primary school education options.



### High school

---

To prepare your child for university, or to offer them an international high school experience, consider Canada as a study destination. Find out about our secondary school options.



### Language schools

---

Study English or French while visiting or working in Canada or upgrade your language skills so you can enter a Canadian college or university. Canada's language schools offer high-quality, focused programs.



### Colleges and vocational schools

---

For practical, career focused learning, our colleges and vocational schools will set you on the road to success. Find your college program and start planning your studies in Canada.



### Universities

---

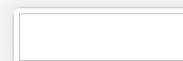
Canada has some of the top universities in the world and is a leader in research that changes lives. Explore your higher education options with us.



### Graduate studies

---

Start here to discover the range of graduate study options available across Canada, including master's degrees, PhD and





## Professional certifications

---

Earn a professional certification or designation in your field of work and open the door to career opportunities in Canada, your home country and beyond.



## Student exchange programs

---

Come to Canada to attend high school, college or university through an exchange program. It's the perfect way to get to know us.



## Online and distance learning

---

Canada is a leader in online learning and distance education. Study from home and get the full benefit of a high-quality Canadian education.

## **Learn more**

---

- [Experience Canada](#)
- [Top reasons to study in Canada](#)
- [Provinces and territories of Canada](#)
- [Understand the Canadian education system](#)



## 大学院の外国人留学生(2019年)

早稲田大学 村上由紀子

- 留学生の場合は、大学院生全体の構成よりも人文科学、社会科学、芸術、その他の割合が高く、逆に、理学、工学、保健、教育の割合が低い（表1）。
- 中国は社会科学、東南アジアは農学、北米は理学とその他、独仏伊は工学の割合が、大学院生全体の学科構成比よりも高い（図1）。

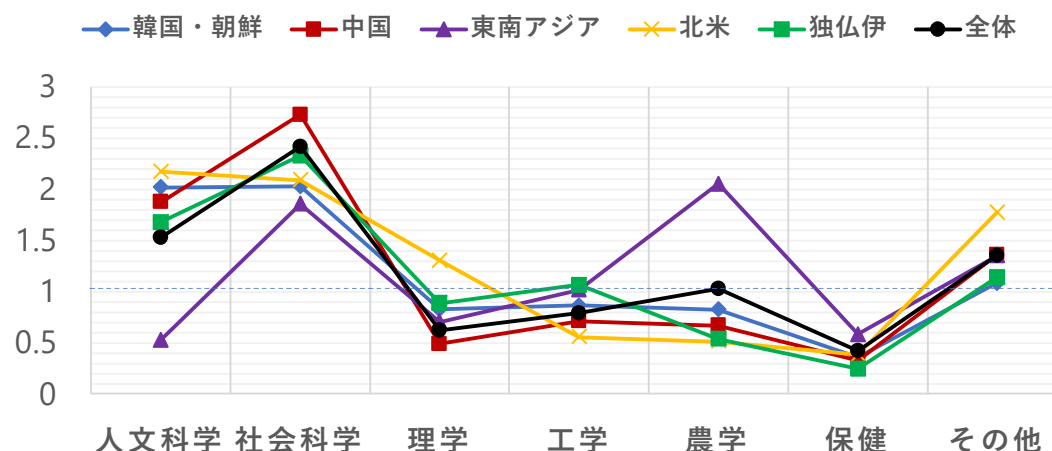
表1

	留学生		全体		a/b
	学生数 (人)	構成比 (%) <b>(a)</b>	学生数 (人)	構成比 (%) <b>(b)</b>	
人文科学	4946	9.9	15323	6.5	1.53
社会科学	11091	22.2	21732	9.2	2.42
理学	2516	5.0	19171	8.1	0.62
工学	13274	26.5	79303	33.5	0.79
農学	2649	5.3	12178	5.1	1.03
保健	3753	7.5	42279	17.8	0.42
商船	23	0.0	61	0.0	1.79
家政	129	0.3	1061	0.4	0.58
教育	1333	2.7	10124	4.3	0.62
芸術	1610	3.2	5198	2.2	1.47
その他	8730	17.4	30542	12.9	1.35
合計	50054	100.0	236972	100.0	

資料出所：文部科学省「平成元年学校基本調査」より作成

- 注) 1. 研究科の修士課程と博士課程の合計の学生数  
 2. 「その他」には、総合科学、国際関係学、人文・社会科学関係の国際コミュニケーション学、グローバルスタディズなどが含まれる。

図1 大学院研究科



資料出所：文部科学省「平成元年学校基本調査」より作成

- 注) 1. 全体は表1のa/bを示す。国（地域）別の統計も同様の方法で算出。  
 2. 東南アジアは、ベトナム、ラオス、カンボジア、タイ、マレーシア、シンガポール、ミャンマー、インドネシア、東チモール、フィリピン、ブルネイの11か国、北米はアメリカ、カナダの2か国を含む。  
 3. 留学生50054人に占める割合は韓国・朝鮮4.8%、中国60.7%、東南アジア14.6%、北米1.1%、独仏伊1.1%である。

## 大学学部の外国人留学生（2019年）

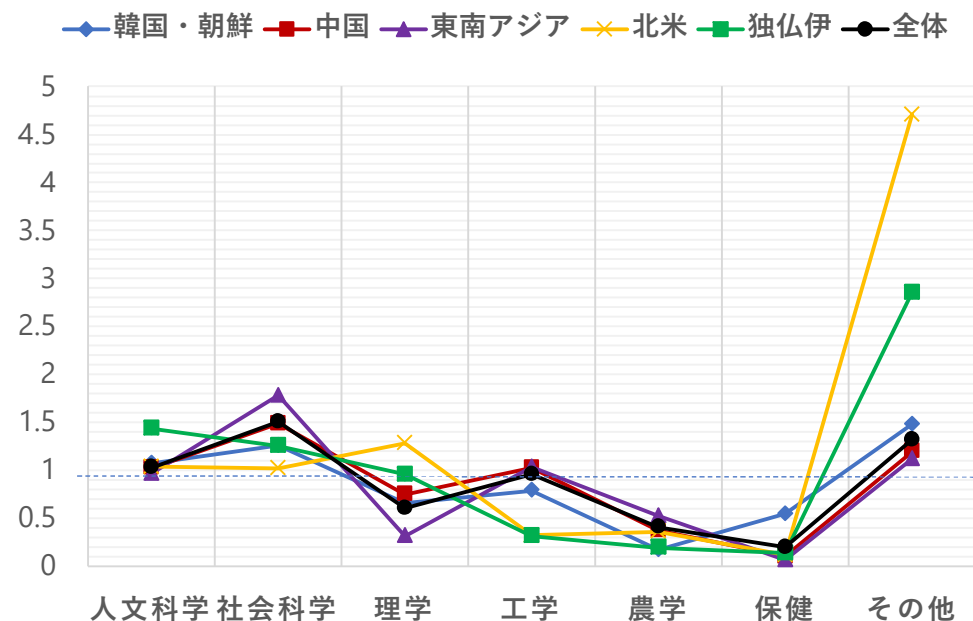
- 留学生の場合は、学部生全体の構成よりも、社会科学、芸術、その他の割合が高く、逆に、理学、農学、保健、教育の割合が低い。
- 北米と独仏伊の「その他」に偏った分布

表2

	留学生		全体		a/b
	学生数 (人)	構成比 (%) <b>(a)</b>	学生数 (人)	構成比 (%) <b>(b)</b>	
人文科学	11457	14.4	365163	14.0	1.03
社会科学	38406	48.2	836408	32.1	1.50
理学	1438	1.8	77997	3.0	0.60
工学	11148	14.0	380452	14.6	0.96
農学	960	1.2	77100	3.0	0.41
保健	1973	2.5	332815	12.8	0.19
商船	3	0.0	406	0.0	0.24
家政	871	1.1	71601	2.7	0.40
教育	1058	1.3	189343	7.3	0.18
芸術	4045	5.1	72920	2.8	1.82
その他	8253	10.4	204943	7.9	1.32
合計	79612	100	2609148	100	

資料出所：文部科学省「平成元年学校基本調査」より作成  
注) 表1の注2に同じ

図2 大学学部



資料出所：文部科学省「平成元年学校基本調査」より作成

注) 1. 全体は表2のa/bを示す。国（地域）別の統計も同様の方法で算出。

2. 図1の注2に同じ

3. 留学生79612人に占める割合は韓国・朝鮮16.9%、中国49.5%、東南アジア20.2%、北米0.8%、独仏伊0.2%である。

外国人留学生の受入れ・日本人学生の海外派遣及び  
初等中等教育段階からの国際感覚の育成について

令和4年10月27日  
広島県知事 湯崎英彦

外国人留学生の受入れ・日本人学生の海外派遣の活性化のためには、次の視点が必要。

**【大学の魅力向上】**

- 世界各国が優秀な学生の獲得を進める中で、我が国が優秀な留学生を確保するためには、大学の魅力向上に注力することが必要である。

米国など先進地の状況を含め、優秀な学生がどのような大学を選択しているか、また留学生が留学先を選択する時に重視することは何かなどを分析し、留学生にとっての大学の魅力は何かを整理したうえで、それに対応する大学の魅力向上策を検討し、計画的に投資を行っていくことが重要である。

- なお、魅力向上策のひとつとして、日本では比較的軽視されている大学のハード整備への投資が考えられる。

魅力的なキャンパスを形成するためには、ソフトとハードを合わせて整備することが重要であり、キャンパス全体を構築し直すことは困難であっても、広島大学における「ミライクリエ」のようなイノベーションハブ的拠点など、一部機能についてでもソフトとハードを合わせた整備を行い、魅力的な空間を作ることが必要ではないか。

- さらに、トップレベルの留学生を獲得するためには、海外を含めたトップクラスの教授陣を招聘することも必要と考えるが、そのようなトップクラスの教授の居住施設も、グローバルなレベルで満足してもらえるようなものを整備することも必要と考える。

**【分野を決めた積極投資】**

- 同時に、戦略的に分野を決めたうえで、そこに積極的に投資を行うことも必要。

例えば

- ・ 既に競争力のある日本の大学の学部等については、留学生の受入れ数を拡大するとともに、授業料や生活費などを助成する仕組みを作り、トップレベルの留学生を確保する。

- ・ 日本の社会・文化等の研究者について、奨学金などを支給し、積極的に受け入れを行うことで、日本の理解者を増加させる。
- など分野を絞り、「トップ学生」と「日本の理解者」を増やす取組を戦略的に行うことを検討してはどうか。

### 【高校段階からの連携】

- このためには、大学だけではなく、高校からの取組も重要である。

まずは、高校での1年以上の長期交換留学を促進し、日本に来る高校レベルでの留学生を増加させ、それにより姉妹校提携や国際交流プログラムの推進を図り、日本に興味を持つ人を増やすべきである。

こうした取組は、大学等の高等教育における外国人留学生を増加させるとともに、早い段階からの国際交流の経験は、日本の若者の国際感覚や留学意識の向上に寄与し、日本人の大学・大学院での留学派遣の増加に繋がると考える。

### 【本県の初等中等教育段階からの国際感覚育成等の取組】

- 本県では、中等教育段階から国際感覚を身につけるための取組を行うとともに、乳幼児期や初等教育においてもその土台を作るため、首尾一貫した教育に取り組んでいる。

#### ➤ 本県の主な取組

##### 《初等中等教育》

##### ・ 広島叡智学園中学校・高等学校の開校

グローバルな場でも活躍できるリーダーの育成を目指し、広島叡智学園中学校・高等学校を平成31年4月に開校。

生徒全員が一貫した国際バカロレアの教育プログラムを履修する全国初となる公立学校であり、高等学校では生徒の3分の1が海外からの留学生等。また、ほぼ全ての授業を原則英語で実施。3年間の教育でIB資格と日本の高等学校卒業資格を取得。

##### ・ 異文化間協働活動の推進

全ての小・中・高等学校において異文化間協働活動が活発に行われ、必要なグローバルな教育環境を整備するため、異文化間協働活動支援員を設置

##### ・ 全ての県立学校での姉妹校提携

特別支援学校も含めた全ての県立学校で海外の学校と姉妹校提携を行い、その姉妹校等の受入の支援やオンラインを活用した姉妹校交流等の支援

➤ **本県のその他の取組**

《乳幼児期・初等中等教育》

・「遊び 学び 育つひろしまっ子!」推進プラン, 「学びの変革」アクションプランの実施

異文化の受入の基礎となる, 多様性を受け入れ, 様々な人とのよい関係を築く「人とかかわる力」の育成や, 小・中・高等学校における課題発見・解決学習をはじめとした「主体的な学び」を促す教育活動を推進。

《高等教育》

・ものづくりグローバル人材の育成

産学官が連携し, 「広島県ものづくりグローバル人材育成協議会」を設立し, 広島大学大学院に優秀な理工系留学生を受け入れ, 日本型ものづくりのノウハウを活かした教育プログラムの実施や奨学金の支給を通じて, 県内企業の高度外国人材採用を支援

# 広島大学フェニックス国際センター MIRAI CREA の設置

「知の拠点」として人々の知識の循環を育み、イノベーションハブとして誰もが気軽に利用・参加できる施設



項目	内容	備考
施設の利用	国際交流拠点施設	
開館	令和3年10月27日	令和2年10月15日着工
建設用地	広島大学東広島キャンパス（東広島市鏡山）	大学会館東側、交通結節点に隣接
主要機能	①イノベーション創出機能 ②交流拠点機能 ③居住機能（居住施設68室）	構造規模：RC造7階建て一部鉄骨造 延床面積：3,968㎡ 事業費：約15億円
諸室	1階 多目的スペース、管理事務室、カフェ、小会議室、コミュニティーキッチン等 2階 大会議室、オフィス、小会議室 ラウンジ等 3～7階 居住施設（全68室）、交流ラウンジ	（居室内訳） 留学生用居室 34室 バリアフリー居室 3室 単身研究者用居室 25室 家族研究者用居室 4室 トップ研究者用居室 2室

## 主要な機能など



### ■ 多様な人々の交流による賑わいづくりと「知識の循環」

グローバル展開により、海外からトップ研究者や留学生を呼び込み、様々な交流で、地域の「知の拠点」として知識の循環を育む。同時に、地域の国際化の推進、地域の活性化に取り組む。

### ■ イノベーション・ハブによる新事業の創出

世界と結ぶグローバルイノベーションの連結点（ハブ）として、様々な立場・職種の人々がアイデアやシーズを生み、新事業につなげていく運営を行う。



### ■ 安全で快適な空間（居住施設）の提供

海外のトップ研究者や優れた留学生を対象として、一定レベル以上の快適で安全な居室を提供する。生活スタイルに応じて、複数の居住空間を活用する。

### ■ 周辺施設との連携による効果的な管理運営

ラーニング・commonsやセミナー室など、学習・集会機能を有する東図書館や食堂、売店、集会室など、生活・集会機能を有している大学会館との連携を図り、この一帯の賑わいを創出する。

